

55t
あきんど
攻める商人！ 繋がる商人！
あきんど

●第151回(平成28年度第4回)●

中小企業景況調査報告書

栃木県商工会地区

平成29年 1月～ 3月・報告

平成29年 4月～ 6月・予想



栃木県商工会連合会

目次

	頁
1. 栃木県産業全体の景況概要	3
栃木県と全国の業況D I 推移を比較・・・図1	
県内産業別の業況D I 推移を比較・・・図2	
2. 製造業の景況	4
主要景況項目の推移	・・・図3
売上額(加工高)の状況	・・・図4
採算(経常利益)の状況	・・・図5
設備投資の状況	・・・図6
経営上の問題点の状況	・・・図7
3. 建設業の景況	7
主要景況項目の推移	・・・図8
売上額(完成工事高)の状況	・・・図9
採算(経常利益)の状況	・・・図10
設備投資の状況	・・・図11
経営上の問題点の状況	・・・図12
4. 小売業の景況	10
主要景況項目の推移	・・・図13
売上額の状況	・・・図14
採算(経常利益)の状況	・・・図15
設備投資の状況	・・・図16
経営上の問題点の状況	・・・図17
5. サービス業の景況	13
主要景況項目の推移	・・・図18
売上額(収入高)の状況	・・・図19
採算(経常利益)の状況	・・・図20
設備投資の状況	・・・図21
経営上の問題点の状況	・・・図22
6. 調査対象事業所の内容	16

○D I 指数とは

本文中やグラフ中に登場するD I 値とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index = 景気動向指数)の略であり、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合から減少(低下・悪化)企業割合を差し引いた値を示すものである。

D I 値がプラスのときは業況の好転、マイナスのときは業況の悪化を示すことから、景気の動向を判断する指数として利用される。また、D I 値は強気・弱気など、景況感の相対的な広がり示すものであり、売上額などの実数値の上昇率とは異なる。

たとえば、今期の売上額を前年同期と比較した結果、増加企業が50%、不変企業が30%、減少企業が20%となったとすると、D I 値は $50 - 20 = 30$ となり、売上額に対して強気の度合いを示している。

〔 調 査 要 領 〕

○調査の目的

中小企業景況調査は、全国の商工会地区に地域経済観測点を設置し、地域の産業の状況等や経済動向等について、一定時期ごとに変化の実態諸情報を迅速かつ的確に収集・提供して、経営改善普及事業の効果的実施に資するものとする。

本報告書は、栃木県内商工会地区における、「製造業」「建設業」「小売業」「サービス業」の4業種を、主要景況項目（売上額・原材料仕入単価・採算・資金繰り）から分析し、景況情報をまとめたものである。

○調査対象地区

栃木県下の10商工会地区

矢板市・上三川町・うつのみや市・芳賀町・壬生町

野木町・小山市美田・那珂川町・黒羽・湯津上

○調査対象

対象企業数：上記商工会地区の150企業（1商工会15企業）

回答企業数：150企業（回答率100.0%）

○調査時点

平成29年3月1日

○調査対象期間

平成29年1月～3月期の実績及び、平成29年4月～6月期の見通しについて調査

○調査方法

商工会の経営指導員による訪問調査

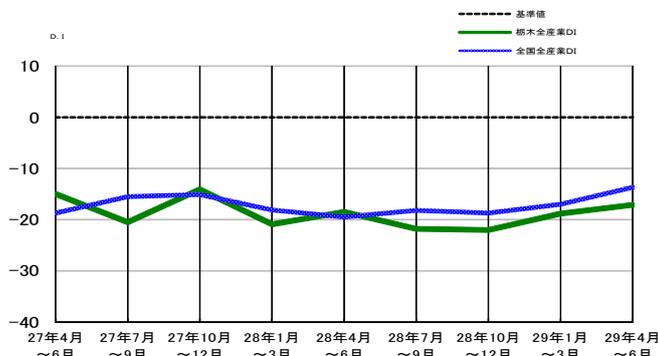
○回答企業数内訳

産 業	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	32	21.3
建 設 業	19	12.7
小 売 業	37	24.6
サ ー ビ ス 業	62	41.4
合 計	150	100.0

1. 栃木県産業全体の景況概要

〈栃木県と全国の業況D I 推移を比較〉

「県内・全国とも改善傾向、来期の県内は同水準維持を予想」
(前期比) 図 1



今期の業況を全国でみると、D I 値は1.7ポイント(-18.7ポイント→-17.0ポイント)の改善となり、来期の見通しも3.3ポイントの改善を予想している。

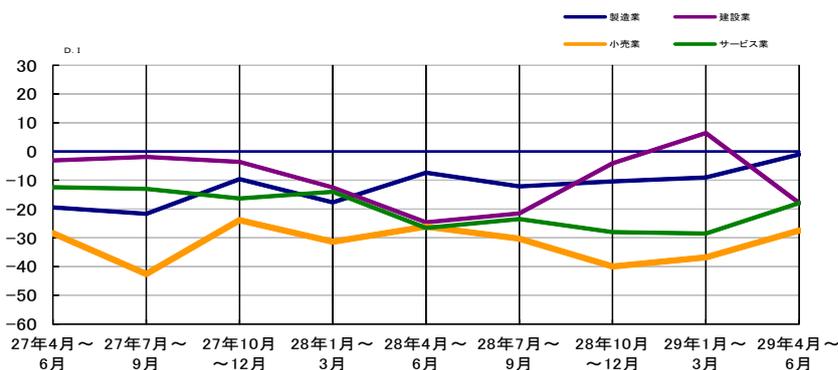
栃木県内の業況D I も、3.2ポイント(-22.0ポイント→-18.8ポイント)改善し、来期予想も1.7ポイント(-18.8ポイント→-17.1ポイント)の改善を予想している。

今期は、全国・県内とも改善傾向で推移しており、来期においては全国で改善、県内では同水準維持と予想している。

※全国業況D I は、独立行政法人中小企業基盤整備機構が公表するニュースリリースから、栃木県業況D I は、商工会議所・中小企業団体中央会が実施する中小企業景況調査を含めた値を利用してグラフ化した。それぞれの調査時点は同日である。

〈県内産業別の業況D I 推移を比較〉

「今期建設業は大幅に改善、来期は大幅な悪化予想」
(前期比) 図 2



「建設業」が前期比+10.5ポイント(-4.1ポイント→6.4ポイント)、「製造業」が+1.4ポイント(-10.4ポイント→-9.0ポイント)、「小売業」が+3.2ポイント(-40.0ポイント→-36.8ポイント)と、前期より高い水準となっている。

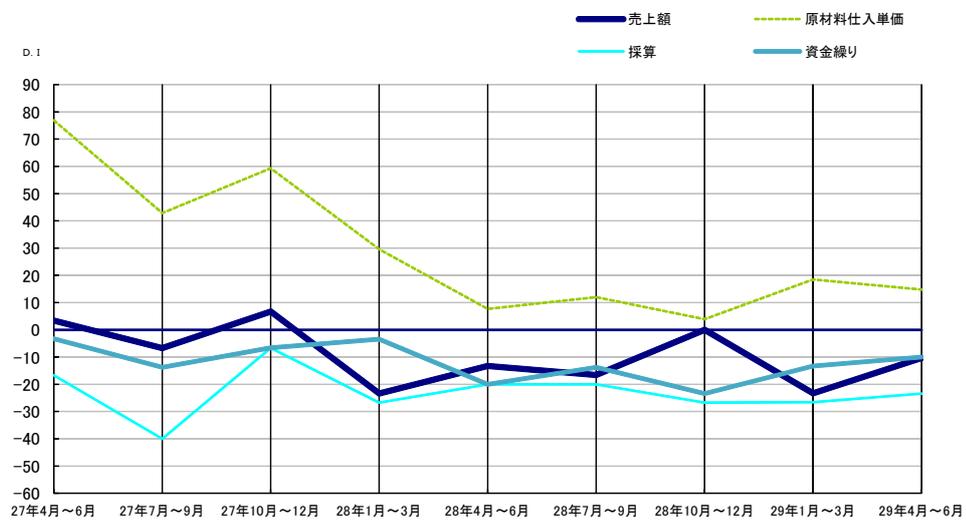
来期は「建設業」が-24.3ポイント(6.4ポイント→-17.9ポイント)と大幅な悪化予想となっているが、「サービス業」では大幅な改善が見込まれる。

2. 製造業の景況

－主要景況項目の推移－

「売上額が大幅に悪化、原材料仕入単価が大幅に上昇」

製造業 主要項目の推移（前年同期比） 図3



今期は、前期に比べて「売上額」が -23.3 ポイント(0.0 ポイント $\rightarrow -23.3$ ポイント)と大幅な悪化となったが、来期では 13 ポイント(-23.3 ポイント $\rightarrow -10.3$ ポイント)の改善を予想している。

「採算」は 0.1 ポイント(-26.7 ポイント $\rightarrow -26.6$ ポイント)、「資金繰り」は 10.1 ポイント(-23.4 ポイント $\rightarrow -13.3$ ポイント)の改善となり、来期は「採算」が 3.2 ポイント、「資金繰り」が 3.3 ポイントの改善を予想している。

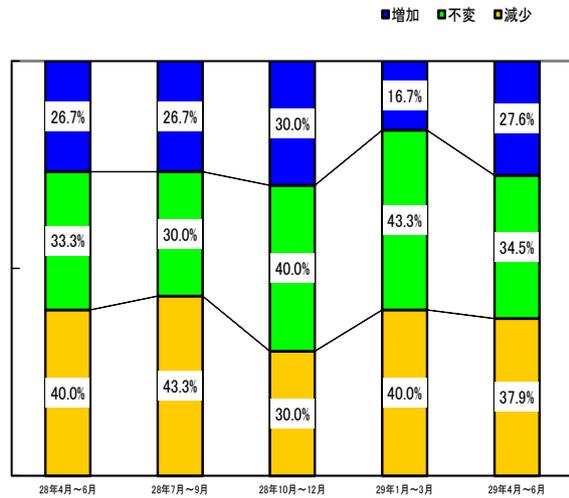
「原材料仕入単価」は、 14.6 ポイント(3.9 ポイント $\rightarrow 18.5$ ポイント)上昇したが、来期は 3.7 ポイント(18.5 ポイント $\rightarrow 14.8$ ポイント)の下降を予想している。

—売上額(加工高)—

今期D I 値の内訳は増加企業が13.3%(30.0%→16.7%)減少し、減少企業が10.0%(30.0%→40.0%)増加したため、D I 値は-23.3ポイントとなり、前期と比べ23.3ポイントの悪化となった。

来期の見通しは、売上増加と予想する企業が10.9%(16.7%→27.6%)増加し、減少と予想する企業が2.1%(40.0%→37.9%)減少するためD I 値は-10.3ポイントと改善を予想している。

売上額(加工高)の状況(前年同期比) 図4

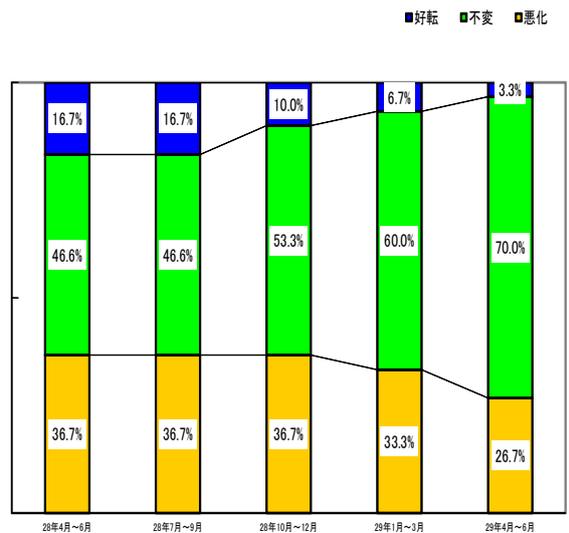


—採算(経常利益)—

今期D I 値の内訳は好転企業が3.3ポイント(10.0%→6.7%)減少し、悪化企業が3.4%(36.7%→33.3%)減少したため、D I 値は-26.6ポイントと横這いで推移した。

また、来期の見通しは、好転を予想する企業が3.4%減少し、悪化を予想する企業が6.6%減少するため、D I 値は-23.4ポイントになると予想している。

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図5

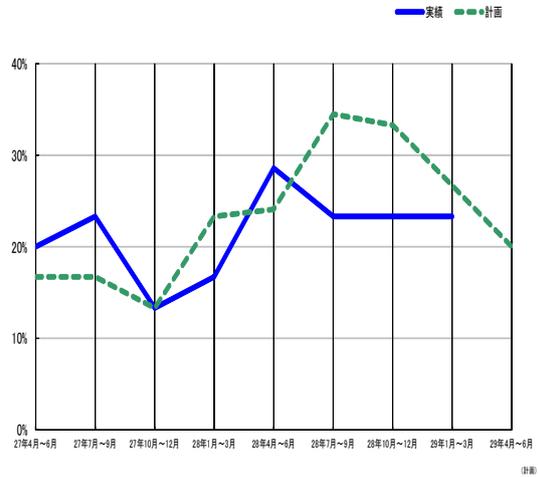


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図6

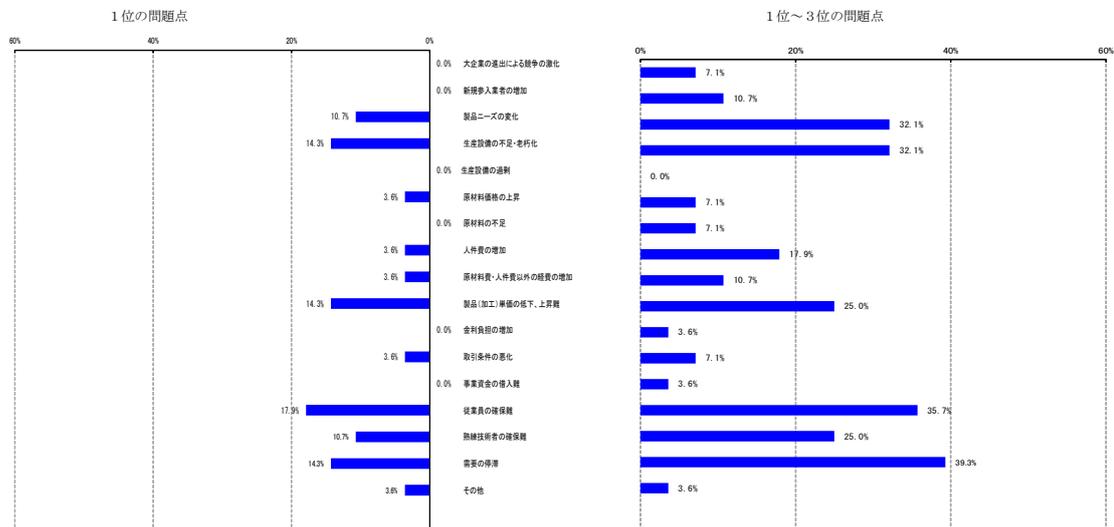
今期の設備投資の実績状況は、計画していた企業割合が26.7%に対し、実績は23.3%と計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は今期よりも6.7% (26.7%→20.0%) 減少している。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図7



1位の問題点を見ると、「従業員の確保難」(17.9%)が最も多く、次いで「生産設備の不足・老朽化」、「製品(加工)単価の低下、上昇難」、「需要の停滞」が共に(14.3%)挙げられている。

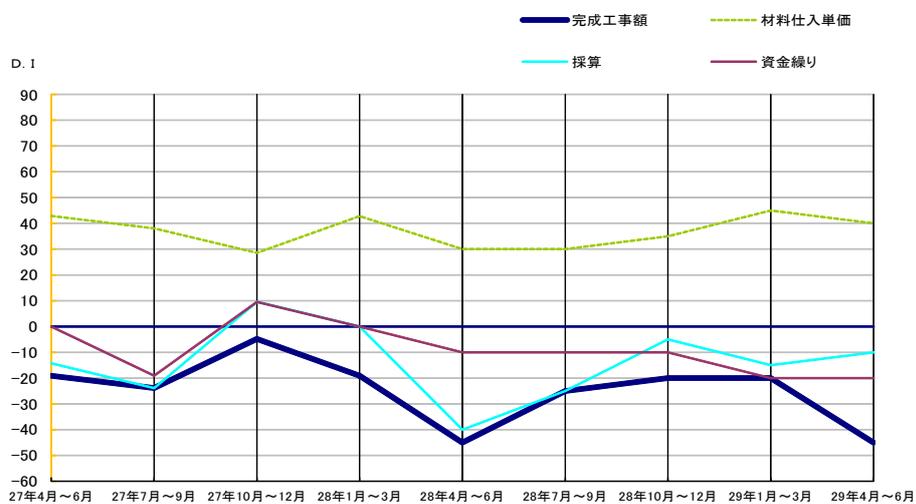
1位～3位の問題点では、前述に加えて「製品ニーズの変化」(32.1%)を挙げており、課題が多いことを示した。

3. 建設業の景況

－主要景況項目の推移－

「今期の売上額は現状維持するも、来期は大幅な悪化を予想」

建設業 主要項目の推移（前年同期比） 図8



「売上額(完成工事高)」は前期比0.0ポイントと現状を維持している。「採算」は前期比-10.0ポイント(-5.0ポイント→-15.0ポイント)、「資金繰り」は前期比-10.0ポイント(-10.0ポイント→-20.0ポイント)の悪化となった。

「材料仕入単価」は前期比10.0ポイント(35.0ポイント→45.0ポイント)上昇した。

来期の見通しは、「売上額(完成工事高)」は25.0ポイント(-20.0%→-45.0%)の大幅な悪化。「採算」は5.0ポイント(-15.0ポイント→-10.0ポイント)の改善、「資金繰り」については前期比0.0ポイント(-20.0ポイント→-20.0ポイント)の現状維持を予想しており、全体として厳しい予想がされた。

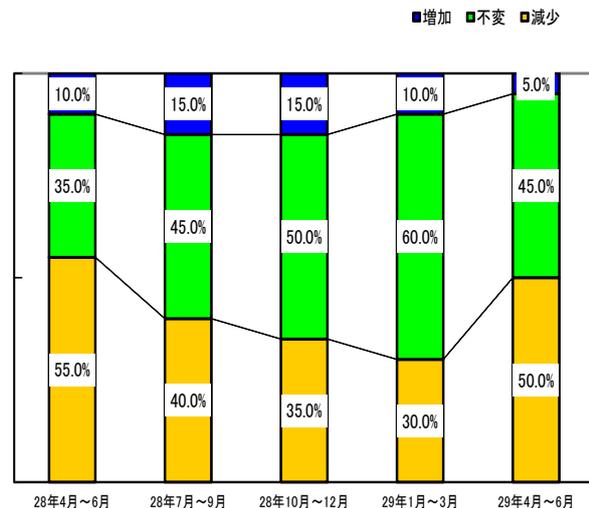
「材料仕入単価」については今期と同水準を予想している。

—売上額(完成工事高)—

売上額(完成工事高)の状況(前年同期比) 図9

今期D I 値の内訳を見ると、増加企業が5.0%(15.0%→10.0%)減少し、減少企業が5.0%(35.0%→30.0%)減少したため、D I 値は-20.0ポイントと、前回から横這いになった。

来期の見通しでは増加を予想する企業が5.0%、減少を予想する企業が50.0%となるため、D I 値は-45.0ポイントと、25.0ポイントの大幅な悪化を予想している。

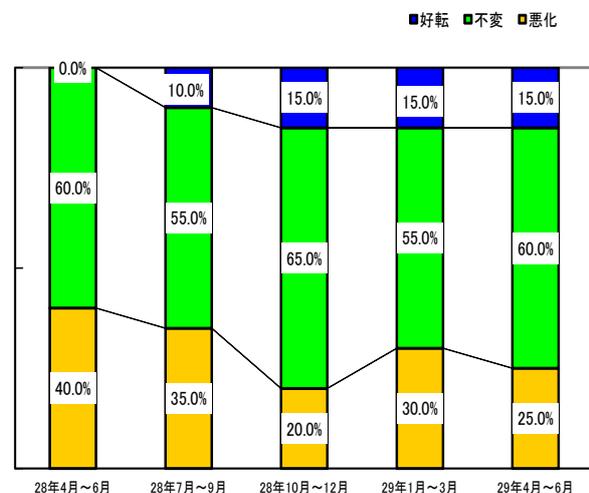


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図10

今期は、好転企業(15.0%)は変わらないものの、悪化企業が10.0%(20.0%→30.0%)増加したためD I 値は-15.0ポイントとなった。

来期の見通しは、好転とする企業は変わらず、悪化企業が5.0%(30.0%→25.0%)減少すると見込まれ、D I 値は-10.0ポイントと、5.0ポイントの改善を予想している。

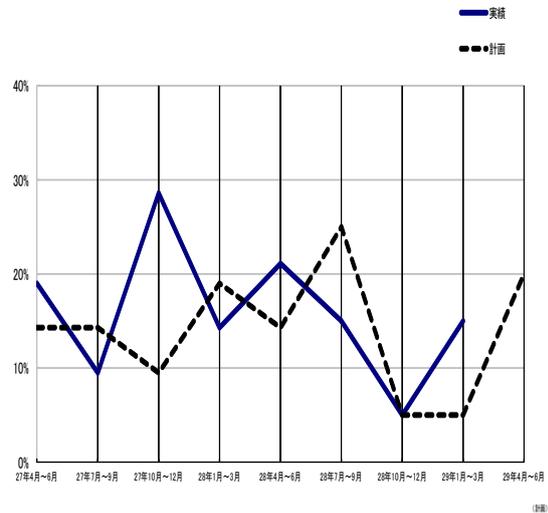


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図11

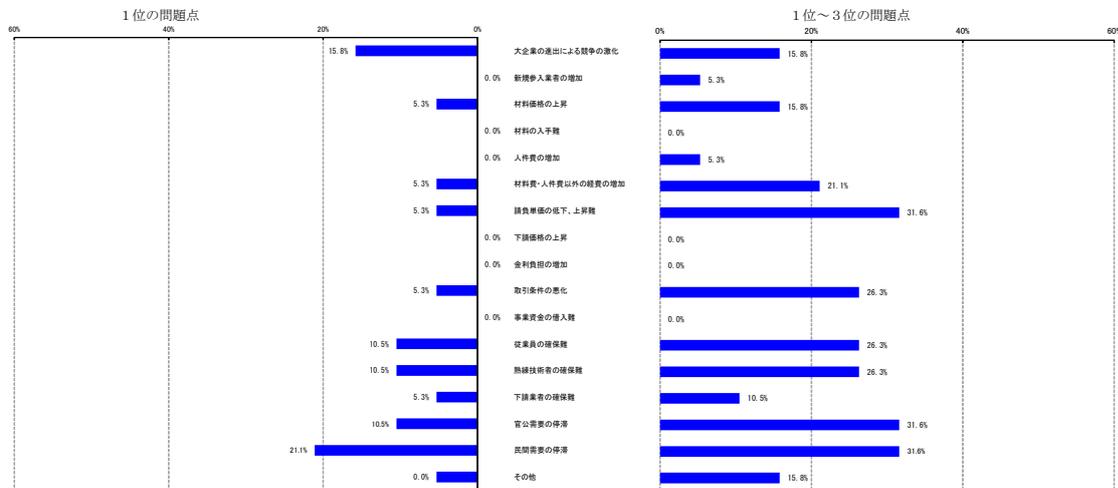
今期の設備投資の状況は、計画していた企業が5.0%に対して、実績は15.0%と計画を上回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業は20.0%と、今期計画より15.0%の大幅な増加を予想している。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図12



1位の問題点では、「民間需要の停滞」(21.1%)が挙げられ、2位の問題点では、「大企業の進出による競争の激化」(15.8%)、3位の問題点では、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」、「官公需要の停滞」が同率(10.5%)で挙げられた。

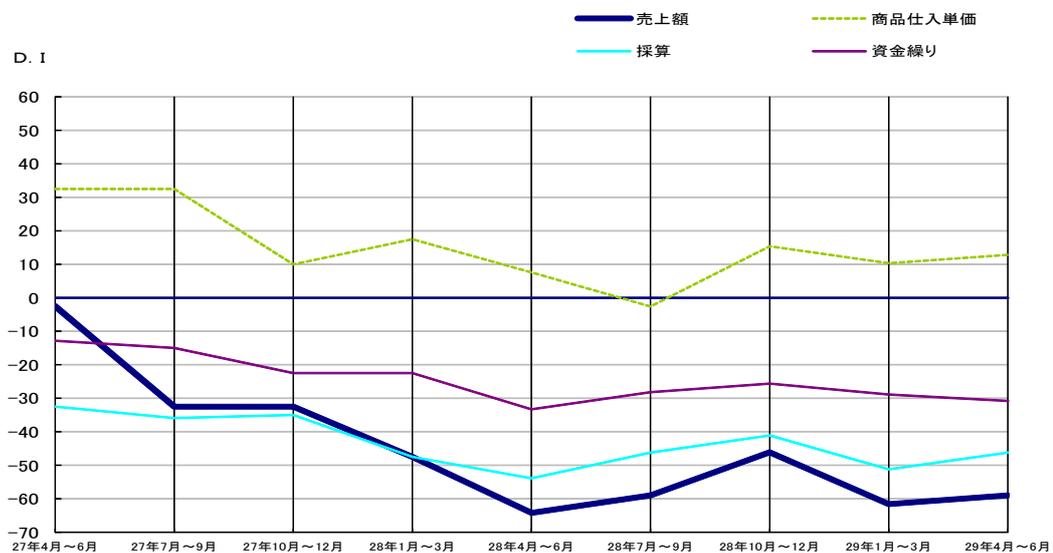
1位～3位の問題点では、前述の問題に加え「請負単価の低下、上昇難」(31.6%)、「取引条件の悪化」(26.3%)が高い値で挙げられている。

4. 小売業の景況

－主要景況項目の推移－

「各項目で悪化を示すが、来期は売上額・採算で小幅な改善を予想」

小売業 主要項目の推移（前年同期比）図13



「売上額」が前期比15.5ポイント（-46.1ポイント→-61.6ポイント）、「採算」が前期比10.1ポイント（-41.1ポイント→-51.2ポイント）、「資金繰り」が前期比3.3ポイント（-25.6ポイント→-28.9ポイント）の悪化となった。

来期は「売上額」が2.6ポイント（-61.6ポイント→-59.0ポイント）、「採算」が5.0ポイント（-51.2ポイント→-46.2ポイント）の改善を予想しているが、「資金繰り」は1.9ポイントの悪化を予想している。

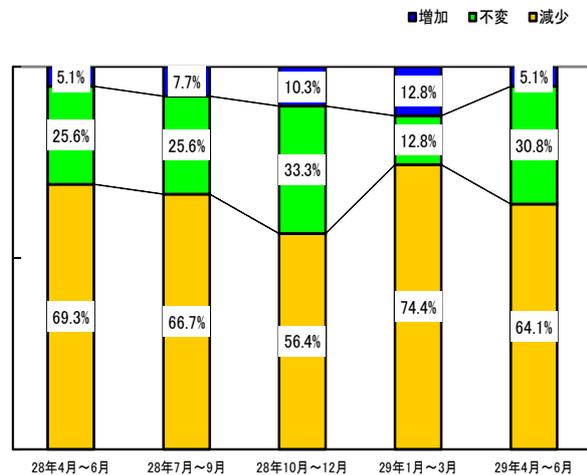
「商品仕入単価」について、今期は5.1ポイント（15.4ポイント→10.3ポイント）の下降となったが、来期では2.5ポイントの上昇が見込まれる。

—売上額—

売上額の状況（前年同期比）図14

今期D I 値の内訳を見ると、売上額が増加したとする企業が12.8%、減少企業が74.4%となった。その為、D I 値は-61.6ポイントとなり前期より15.5ポイント悪化した。

来期の見通しは、売上増加を予想する企業が5.1%に減少、減少を予想する企業が64.1%に減少するため、D I 値は-59.0ポイントとなり、2.6ポイントの改善を予想している。

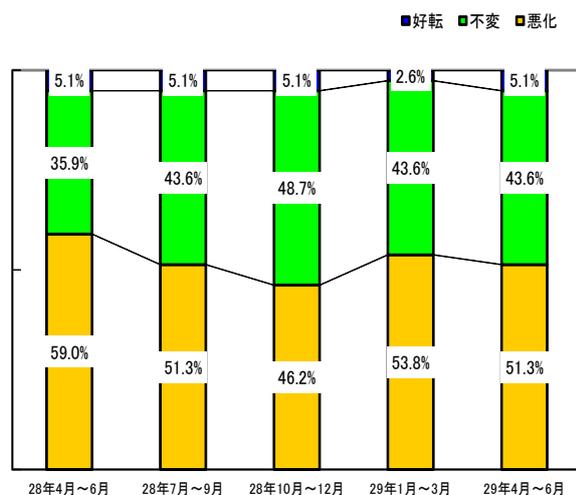


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況（前年同期比）図15

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が2.6%、悪化企業が53.8%でD I 値は-51.2ポイントと、前期(-41.1ポイント)に比べ10.1ポイントの悪化となっている。

来期の見通しは、好転企業が2.5%増加し、悪化企業が2.5%減少するためD I 値は-46.2ポイントと今期より5.0ポイントの改善を予想している。

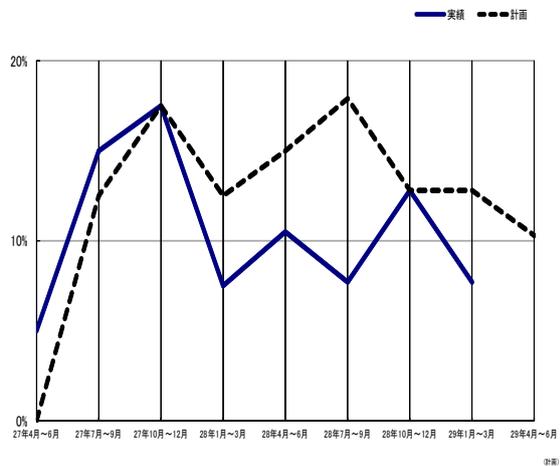


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図16

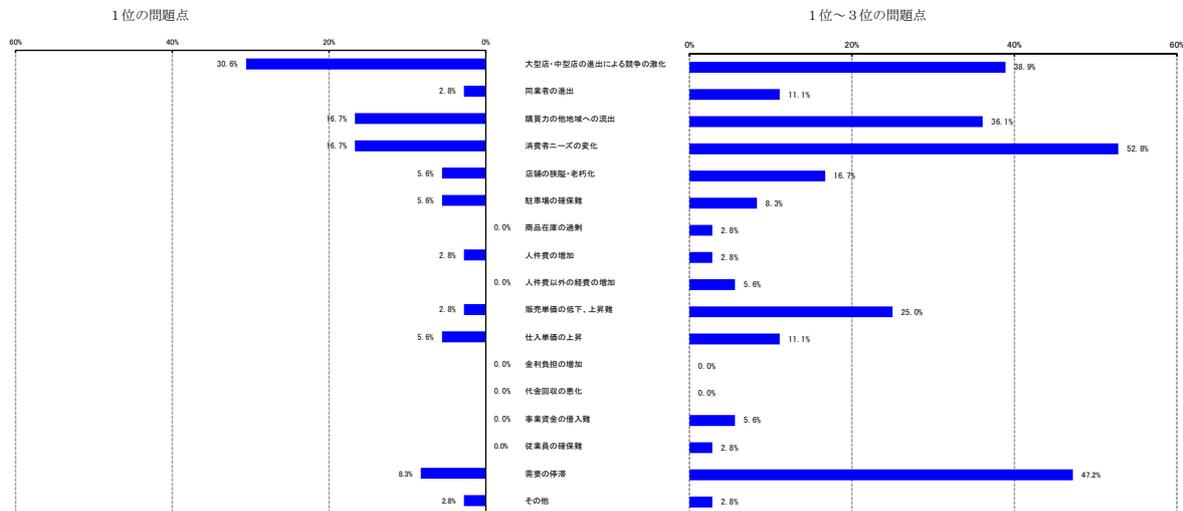
今期の設備投資の状況は、計画していた企業12.8%に対し、実績は7.7%と、計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業も、今期より2.5%(12.8%→10.3%)下回る予想となっている。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図17



1位の問題点では、3期連続で「大型店・中型店の進出による競争の激化」(30.6%)が高い水準を維持し、次いで「購買力の他地域への流出」「消費者ニーズの変化」(16.7%)が挙げられている。

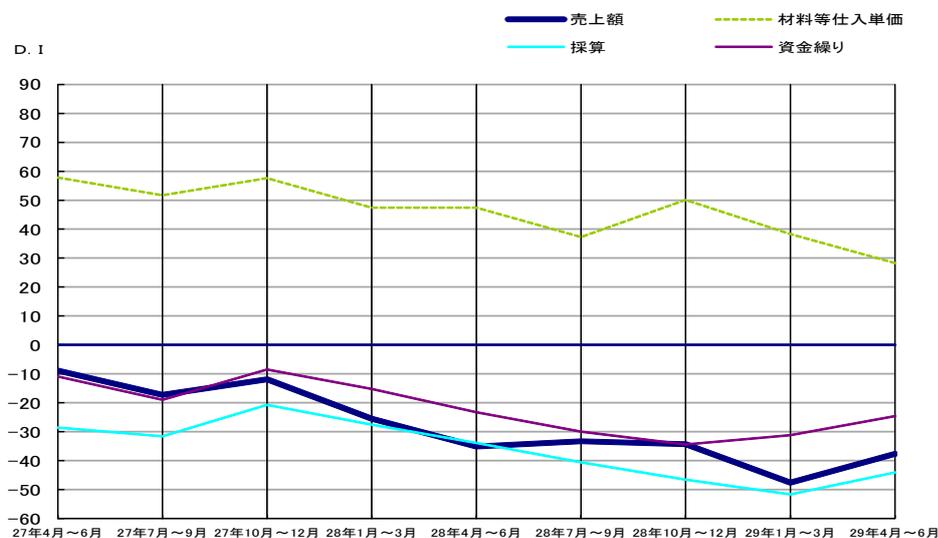
1位～3位の問題点では、上記の問題に加え「需要の停滞」(47.2%)が挙げられている。

5. サービス業の景況

—主要景況項目の推移—

「売上額・採算で悪化傾向、来期は改善の見通し」

サービス業 主要項目の推移（前年同期比） 図18



今期の「売上額」は前期と比べ13.3ポイント（-34.3ポイント→-47.6ポイント）の悪化、「採算」も前期と比べ5.1ポイント（-46.6%→-51.7%）悪化した。「資金繰り」は3.2ポイント（-34.4ポイント→-31.2ポイント）の改善となった。

「材料等仕入単価」は前期と比べ11.8%（50.1%→38.3%）の大幅な下降となった。

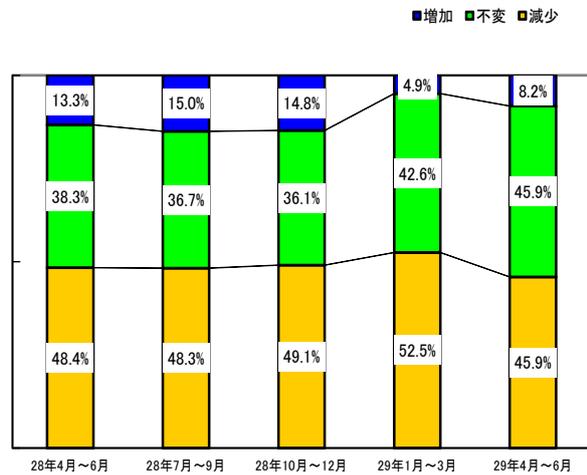
来期は、「売上額」が9.9ポイント、「採算」が7.6ポイント、「資金繰り」では6.6ポイントの改善が予想され、「材料等仕入単価」は10.0ポイント（38.3ポイント→28.3ポイント）の大幅な下降を予想している。

—売上額(収入高)—

売上額(収入高)の状況(前年同期比) 図19

今期売上額のD I 値の内訳を見ると、増加企業が4.9%と前期に比べ減少し、減少企業が52.5%に増加したためD I 値は-47.6ポイントとなり、前期より13.3ポイント(-34.3ポイント→-47.6ポイント)悪化した。

来期の見通しについては、増加・不変を予想する企業が3.3%増加し、減少を予想する企業が6.6%減少するため、D I 値は-37.7ポイントと、今期より9.9ポイントの改善を予想している。

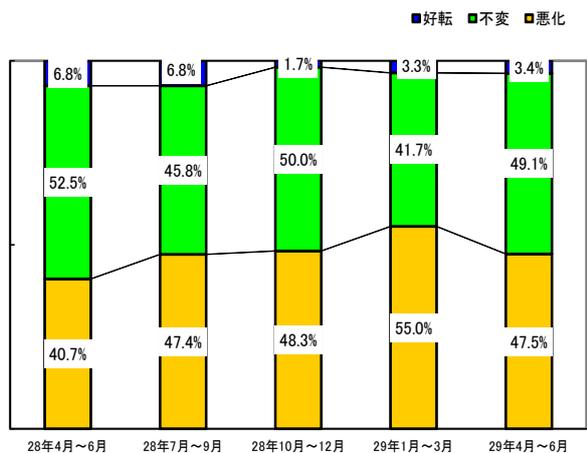


—採算(経常利益)—

採算(経常利益)の状況(前年同期比) 図20

今期D I 値の内訳を見ると、好転企業が1.6%増加し、悪化企業が6.7%増加したため、D I 値は、-51.7ポイントとなり、前期に比べ5.1ポイント悪化した。

来期の見通しは、好転を予想する企業が0.1%増加し、悪化を予想する企業が7.5%減少するため、D I 値は-44.1ポイントと、7.6ポイントの改善予想となっている。

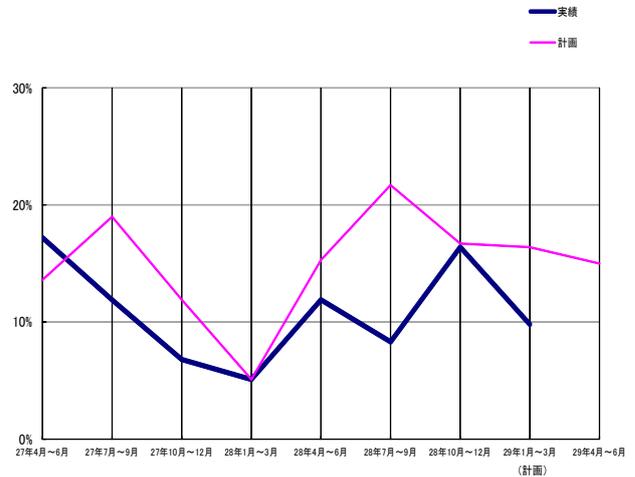


—設備投資の状況—

設備投資の状況 図21

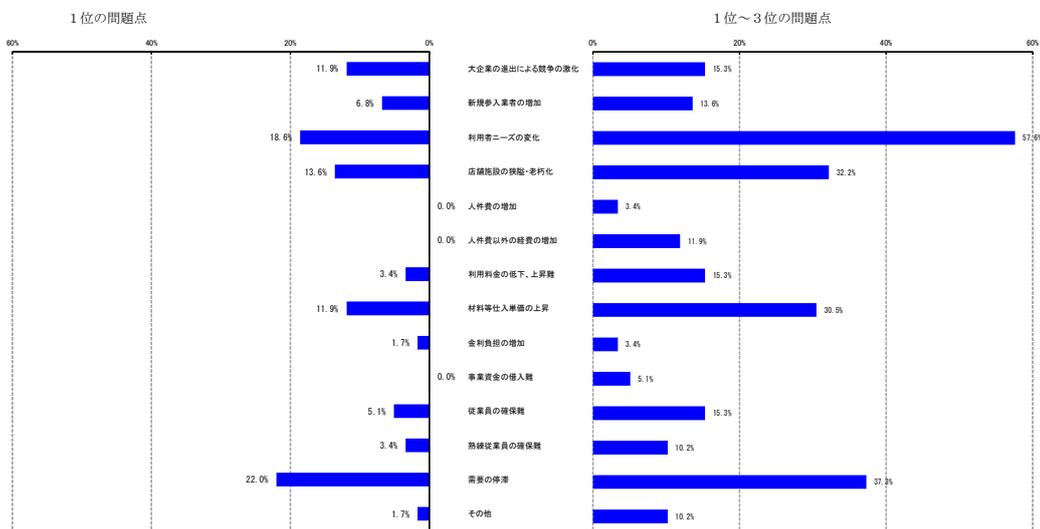
今期の設備投資の状況は、計画していた企業割合16.4%に対し、実施企業は9.8%となり、計画を下回る結果となった。

来期に設備投資を計画している企業が前期に比べ1.4% (16.4%→15.0%)の減少を予想している。



—経営上の問題点—

経営上の問題点の状況 図22



1位の問題点では、「需要の停滞」(22.0%)がトップに挙げられ、次いで「利用者ニーズの変化」(18.6%)、「大企業の進出による競争の激化」「材料等仕入単価の上昇」が同率(11.9%)となっている。

1位～3位の問題点でも、「利用者ニーズの変化」(57.6%)、「需要の停滞」(37.3%)が上位となり、同じ問題点が挙げられている。

6. 調査対象事業所の内容

〈製造業〉

業種別内訳 32事業所

業種	事業所数	割合%
食料品製造業	3	9.4
飲料・資料・たばこ製造業	1	3.1
繊維工業	3	9.4
印刷・同関連業	2	6.3
化学工業	1	3.1
プラスチック製品製造業	1	3.1
鉄鋼業	2	6.3
非鉄鋼業	2	6.3
金属製品製造業	4	12.5
はん用機械器具製造業	1	3.1
生産用機械器具製造業	3	9.4
業務用機械器具製造業	1	3.1
電気機械器具製造業	1	3.1
情報通信機械器具製造業	1	3.1
輸送用機械器具製造業	2	6.3
その他の製造業	4	12.4

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	33.3
3人以上～5人以下	4	13.3
6人以上～10人以下	7	23.3
11人以上～20人以下	6	20.0
21人以上～50人以下	3	10.0
51人以上～100人以下	0	0.0
101人以上	0	0.0

〈建設業〉

業種別内訳 19事業所

業種	事業所数	割合%
総合工事業	8	42.1
職別工事業	9	47.4
設備工事業	2	10.5

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	10	50.0
3人以上～5人以下	7	35.0
6人以上～10人以下	1	5.0
11人以上～20人以下	1	5.0
21人以上～50人以下	1	5.0
51人以上～100人以下	0	0.0
100人以上	0	0.0

〈小売業〉

業種別内訳 37事業所

業種	事業所数	割合%
織物・衣服・身の回り品小売業	6	16.2
飲食料品小売業	17	46.0
自動車・自転車小売業	2	5.4
その他小売業	12	32.4

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	29	74.3
3人以上～5人以下	8	20.5
6人以上～10人以下	1	2.5
11人以上～21人以下	0	0.0
21人以上	0	0.0

〈サービス業〉

業種別内訳 62事業所

業種	事業所数	割合%
技術サービス業	3	4.8
一般飲食業（一般・遊興）	24	38.7
宿泊業	1	1.6
洗濯・理美容業	20	32.3
自動車整備業	5	8.1
機械等修理業	1	1.6
その他サービス業	8	12.9

従業員規模別内訳

従業員数	事業所数	割合%
2人以下	38	62.2
3人以上～5人以下	13	21.3
6人以上～10人以下	7	11.4
11人以上～21人以下	2	3.2
21人以上	1	1.6

第 1 5 1 回中小企業景況調査報告書

平成 2 9 年 1 月～ 3 月期報告

平成 2 9 年 4 月～ 6 月期予想

編集：栃木県商工会連合会 経営の見える課

発行所：栃木県商工会連合会 栃木県宇都宮市中央 3 丁目 1 番 4 号

TEL 028-637-3731 FAX 028-637-2875
